国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24

五月雨

24

24

国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24

国立国会図書館　タイトル『五月雨』請求記号 ん-24

国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24

五月雨

邦高親王

国立国会図書館　タイトル『五月雨』　請求記号　ん-24

国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24

源義政

国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24

国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24

国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24

うのよしあしは色雖なきことを楽なとに
て名はたれはよはにはしくあしとす
左右そりひかこゝろの底のこゝ味いひく
後原を定め香はかひしをうりまそも後
そりといふとも名まをそこは持すれし
香まゝ深しりはいふとも名からそこは持
なるへし香のよろしはよりも名はよ詠しき
を誉とも者よく名もあいくしそこは云
りしこゝね後なるへし香はいふへより乃
名ありてそこへは疑んしやしてなとも云とも
うの者合はのそむ所はあこしく名をひ
けてかも者合の法なわいくこひは者人は
同香ないこともいふとも名をこはあこ
しくせは作者はてかゝなるへし一座小同
者いこすましそ制するへし

六番香合　文明十一年五月十二日於東山泉殿執行之
判　元義同後

六番香合　文明十一年五月十二日於東山泉殿執行之
判庇議詞後日准后書之

一番

左　勝

やくこれ月

右

山しな水

左右香のまかひよろしきもあしる
所をたなしほとふきこそ侍るよし右右
の方人申て左とこれ月ハ秋の世のねや
をさまりしくゆくなへまかまくまにし
むこの月をもひといふまも烟と云
まもうつりを凡魚のたよふこころあり
あらされ名なるへし右山しを水右
まかひくれ山をこそこめくれハす地
にさくのつゆそうけ浜ふ山しる水と
いへれ名めつらしく哥乃こもとゝ名も
よ侍しく侍まこと菌の方をもて色
れ名よもひ侍つ事このゝろたほ
く侍まハ左れ後まて侍るへきよし

国立国会図書館　タイトル『五月雨』　請求記号 ん-24

てよ詠しく名つきられたれ何もしらせ
此うなどなすひこうれくとしてむきふやうま
なすひ修まこと人ハさもおもいし此意乃
哥なたりしくこ見なされたる名まて侍る
まく右の後まて侍るへしこ各中侍しらと
左のゆさの神音も梅うにまて侍るま
せあり程うれなちててやといふ心あり左
右こもふふまこ詠あまハ能持なるも
此詠中人侍りく持たり定られ哉

三番

左 持

かやきこゝろも

右

こ見ゆま

左の香梅ゝゆへあるゆうまきこて侍る
もうしすこしたくれたる右の香ゆハ
うしきなりし花のあふよく此うれし
すゝ見こうふくきこて侍る右のうしな
おへし左しかやきこゝろもハしまれあま
のあまりまゆるたまひかしかやき衣
人をなひうてこゝへる哥をよ詠しくこれ

のあまりまもゆるおもひかたしかやさ衣
人をなひうてこいへる所をよ詠しくらゐ
て名つきられそうなるへし右のうち御
を人しれもまるこうりけまかやくかの
煩りしるになるとむさひつてといふまそ名
法案れそうまはやくしかと名つきられ
へき事ま侍りと人と申侍りといや先ハ
無躰詞にそ侍りて名のさま風流ま
てにはし詠しといふ人と侍りしを常の香
乃名のまるくしの懐中なとし侍りまハ
うれ名さしもあり女を香合まハよしき
なるへし故院の御香合まあいそのうち
といふ名ありいるれしあいそのうちり
やくしか乃烟のなのこそけしなるしむと
いへる所にそにはりしく侍りしを是もやる
しかなるへきうとてまけ侍り其例を
まもしハこりにさまくへしとて名を右
まを侍り香の右ゆり侍をハなしくへて
持也

四番

左 持

四番

左 持

春光

右

うら葉

右の香かつよふ誠百歩の外までも匂ひ
はしてもりもおきかりまゝ侍るや
右の香ゆるきよかひ乃さしてゆるさに
もうれ香ハあまくこもそふ人ハ世にあら
しいはの代も見つるへそうなとなりひ
そまふもりも名ゆへくしく侍りた
右の香よりしいへとも右もうくゆるき
香あるへさまるらねハまくへきまあら
もとて持まさためられたる右の春光ハ
嘯野烟之春光各吟一句といふまて名
つきられる野烟をよりしくいりなせり右
うら藤の梅をの海乃ありそまよられ
しら浪なかさしふ旬ふ春のうらふし此
名もうら葉よりしくけしきそうなと
考られそうなりへし右右ごもふ香光
よりしく名をよ海しく侍りとて上ゆれ

考られそうなるへし左右ともに香を
よろしく名をよみしく得るとて上ゆれ
持て設定

五番

左 勝

そまま水

右

しきれ戸

左の香あけきかひ明わたりもよろ
し但香ある所しくきこゆ右の香から
ひくかうすくあるき枝のあるやうも
いかさまめつしまゆひなわたりもとか
詠し三重こゝへとも左の香ふなよひ
うつし左の玉水なはるを光のあるとハ
うちは見し称ともきけハさけうま朝
乃そまま水この名又俗とはるれ得れ
なるへしなふれよせもかくきけハさす
かふとゝへるこゝろへなおとしてかくま
ていあるなんくらし名つぎられそう
なるへしこ持ひそまへなかわ右れも
きれ戸を心つくれ曲の瑞まちさり

なるへしこれはひそもまへなかれ右れし
きれ戸ゟ心つくれ曲の端まちさり
よひのこそれしらへふきうらそな
と先これうこ乃萩のうをひらくや袖の
うつりかゝつくしたもひよれ見たりしな
うらたまはなまふましきよしなのくや
作りしを右のうゝ見人れたもひよりへ
きとこ浦まあらゆる成名のとり而も
よろしく名ハ拾まもへうへきこのまゝに
ていき者よろしまゆへこのつひハ右
れ縁なり也

六歳

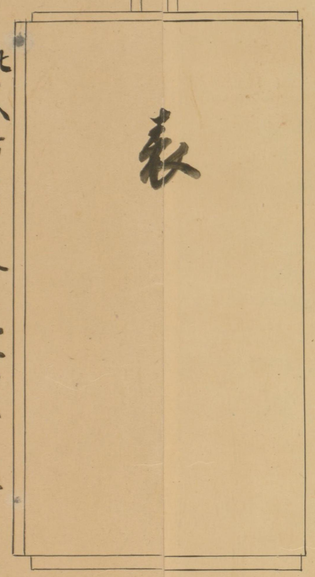
左

祢ぬる乃夏

右 膳

風まゆる

左れ者かよろしもうゝ見もあしうす志ゟ
こいへとこれも者ある詞しくきこゆ右
乃香よろしいふへ乃志ゝ詞にといふ也も
たとうまりしくきこゆもうゝ見もよ詞しむ
右縁なるへし左祢ぬ夜れゆめハのさち。



たれ者かよろしきもあらうすきもあ
ごいへともこれも者あるべきこゆ右
乃香よろしいふしへ乃ちく所にもいふ也も
たらうましくきこゆきもよろしむ
右後なるへし右孫ぬ夜れゆめハのさら。
おもれたちもな乃うかもきこく孫ぬよ乃
夏ハむうしなりけもこも所も名れとか
へもよろし右のやまふきハはうさめの
まかへおもしもあるくにうさへなつかし
やすつさのもな雅れき名なるへし右
れ恋よの夏ハよろしこいへともこちもれ
乃哥よて名つぎ侍るまめつしけなし
者も名も右のうちよなり仰りなる

香畳 竪三寸七分 横二寸

表

此口へ香ぬ入二種或三種

下れ口へきんてさん入
きんてさん所ろのれておもせ

一番 右

表

此口へ香ほこ入二種或三種

下の口へきんしさん入

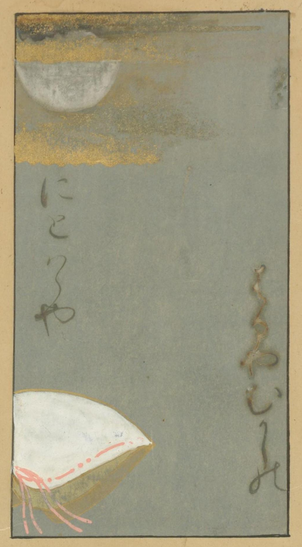
きんしさん所ゆかれしおもせ

一番左

梅の花そのほかれし旬ひそともるや昔れ

月まいりやと云所をもてあしてまゝかぎ也

表



彩色の事

梅こゝん金にてくるもしへし

金也

神表しゆくこゝんかきらの也

三ゆく

神のまゝ称おらのこゝろひとへハ金

ひとへハ青金にてらしとハ白く

いろこゝんに朱ませらる彩色

月きらなも

雲金もるこゝ金すること浪さひ

するこゝなり

紙の色ひくさきなり

文字きらにて書れ

裏

右

うちもへくくれしまものハ人めのミ上のふれうら乃

あまのそくなしといふ所をもてあしてまかけり

表

彩色の事

絵ほうとまこゆんませらるれ

なしめハ金ているわ

上のふゆくせうわうこゝして

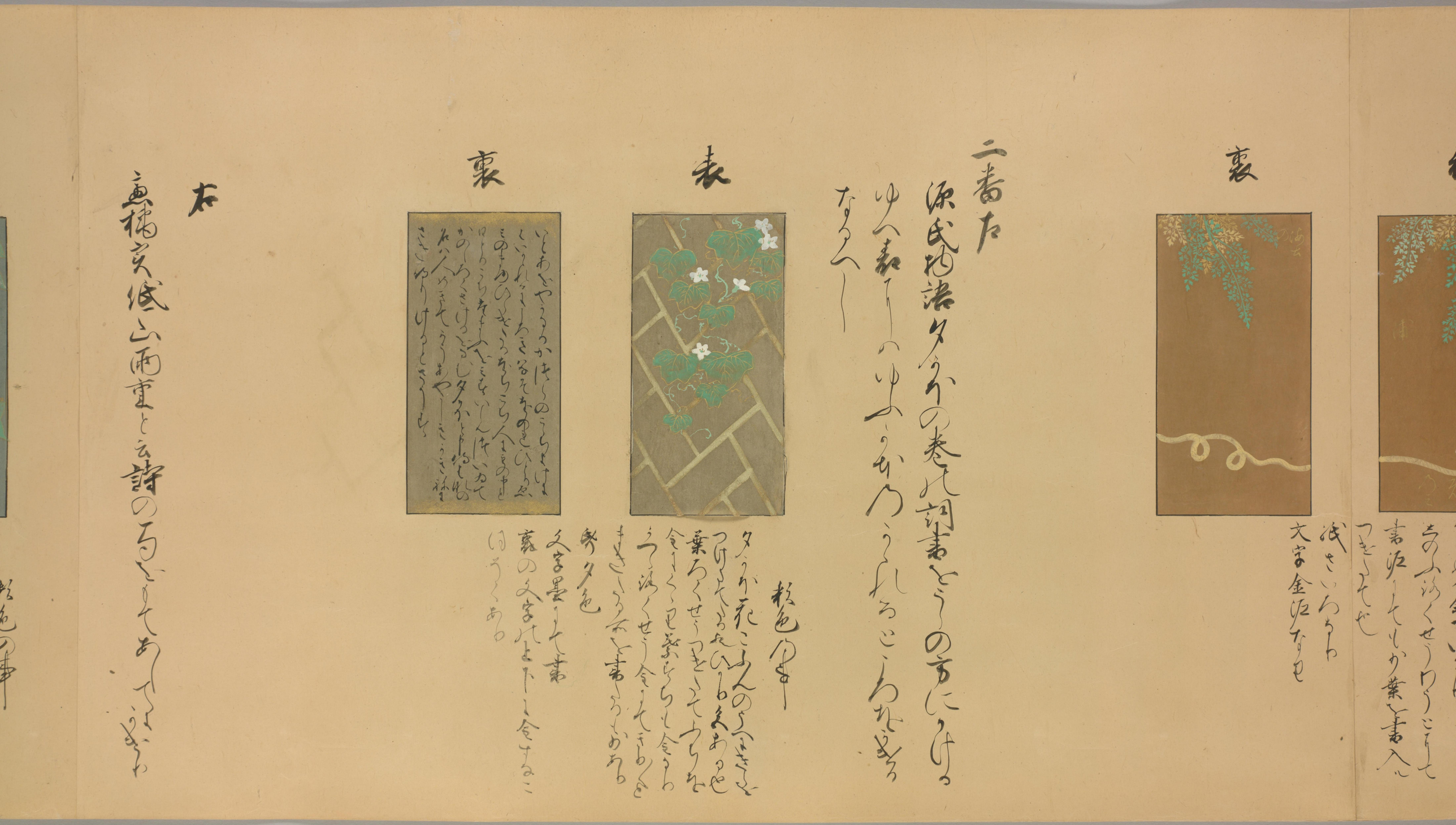
書沼にてしか葉を書入ル

つぎらそせ

紙さいろなり

文字金沼なり

国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24



ちのふ詠くせうりうこりて
書泥にてもか葉を書入ル
つぎこそせ
紙さいろゐ
文字金泥なり

裏

表

裏

二番左
源氏物語夕かの巻の詞書をうらの方にかける
ゆへ表にしのゆふかほ乃うれるこころなるべし
なるへし

粉色乃事
夕かが花こふんのうへまきを
つけたるなれひ色あるも
葉ろくせうつぎこそつちな
令まくこ見紫ちらし令るわ
うつ詠くせう令まてきわくを
まきこうかを書ろもかあ
秀夕色
文字墨にて書
裏の文字は上下に令するこ
はうくあ

右
無橋実紙山雨重と云詩の句をもてあしてよかるわ

画橘実紙山雨重と云詩の句をもてあしてよかれ

表

裏

彩色の事

そちなの黄ろくせう令にくくも葉も紙くせう令ありてくり葉もちも枝も令るわろくせう乃彩色うすめや花にふんにてつきて花もしへ令也

山令するこ上の山一ぬ令るわ

紙ひらを あいてはたらを もるさん

文字墨

三番左

まちもはゆうへ名つまるきうまこそ物あるひ名

はくといふなれといふ字をもてゆしてよかしかれ

表

裏

彩色の事

蓮葉ろくせうにてつきて令にくくも葉もちも令や藻此内に二名あり枝藻ろくせうにて此なるもかうんしやうのもましれなり令ていまてかあいてろふや浮藻花にふんにてつけてしへ令也葉ろくせう令にくくも葉もちも令や貝金銀ぬ令也わちどきにくくり貝のるもきらにて書也

紙うすめひん

文字令沼や

国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24

右

あし成乃山さくら戸とあきなさて我もろ人と
それのこゝしりと云哥をもてあしてはかきも

表

表

秋色のまま

芦穂ハ金沼まで書きたれ
穂のしろきとあつけろうるわ
葉ろくせうこまうやもして
書令ていまであつけろふるわ
山金をなこなわ
櫻の花こゆんまでつきこそ
令まてくらも出へて令沼るわ
じく朱をもんや
松の葉を令まて書んとりこ
木ハ朱すまるわ
紙のもいろ
文字令沼なも

香疊折形

裏の円へ折入る	裏	表	
折目	折目	折目	
切り捨る	午後ハ切て折入る	午後ハ切て折入る	切り
	切り捨る		

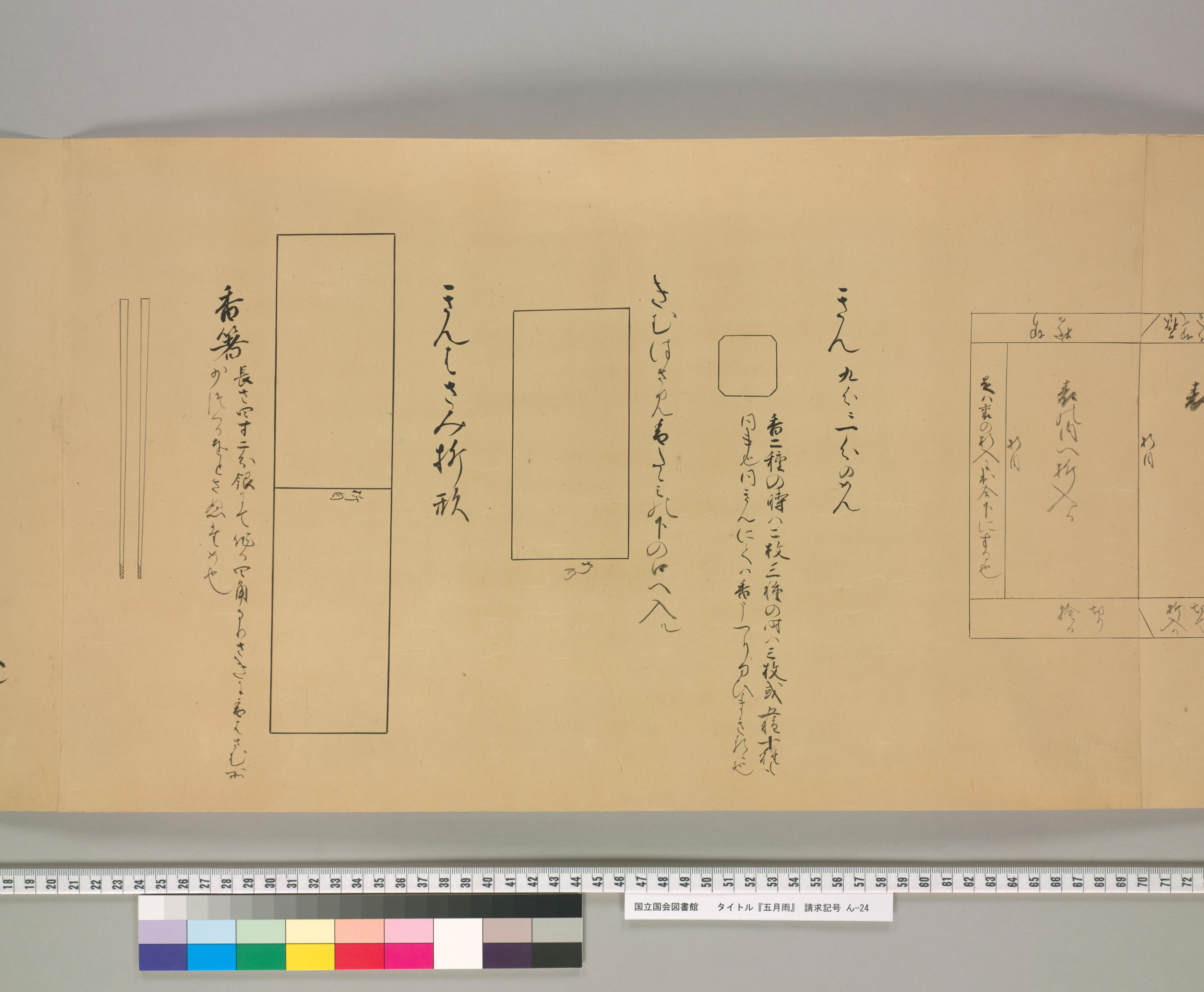
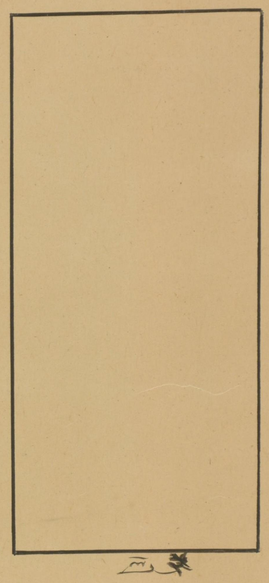
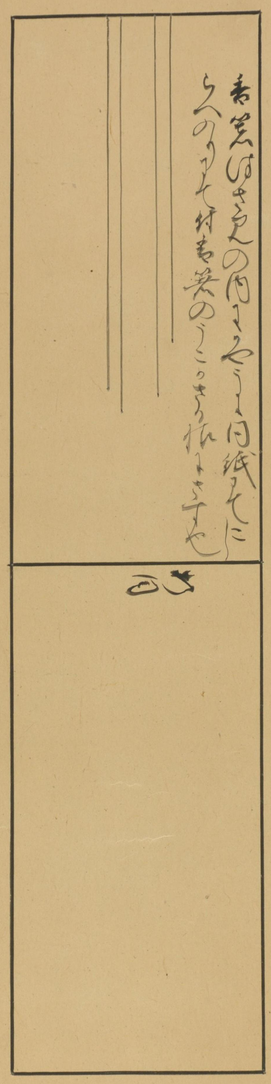


表
表の内へ折入る
折目
足ハ裏の折入ハ本今下にするも
折目
切り捨る
折入る
こさん 九ハ二ハのめん
香二種の時ハ二枚三種の時ハ三枚或五種十種に同まも同こんにくハ香しつりかひまされるも
きじはさかん香ことゝ此下の口へ入る
こさんもさみ折形
香箸 長さ四寸二分銀にて紙の四角なわさきに香をさむ所かけるなとさ思そめや

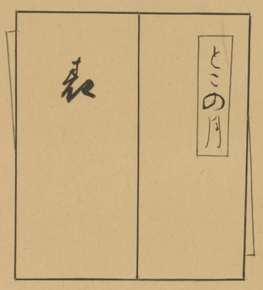
香箸はさ見香畳の上のはへ入る

香箸はさ見折形

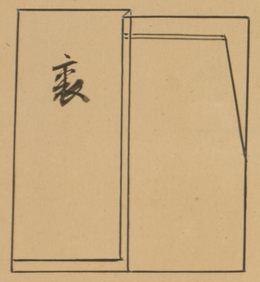




香はくミ右の香箸くミへ二種入の形也ミ
積入ハ應く少なり

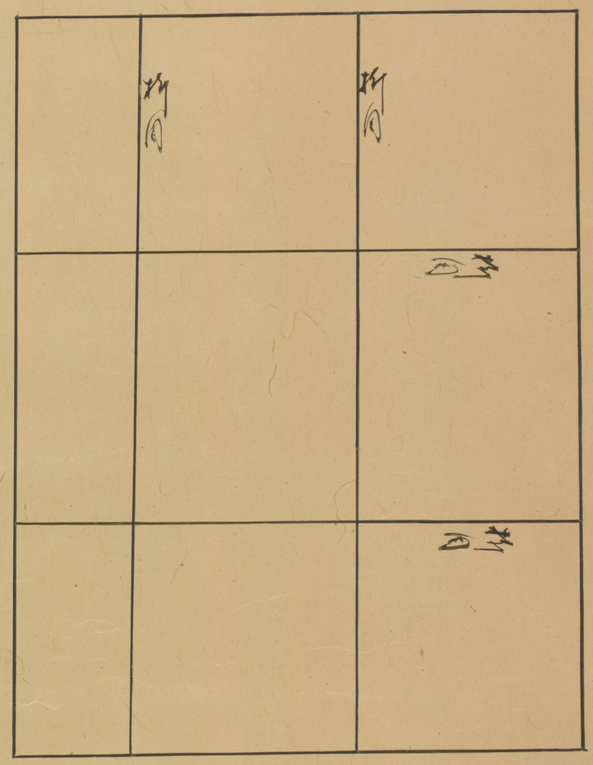


香つゝミ外題ハ肩ニ押はや
物語ハ中ニおし哥書ハ口におと
ゆへにまされぬをめるへし

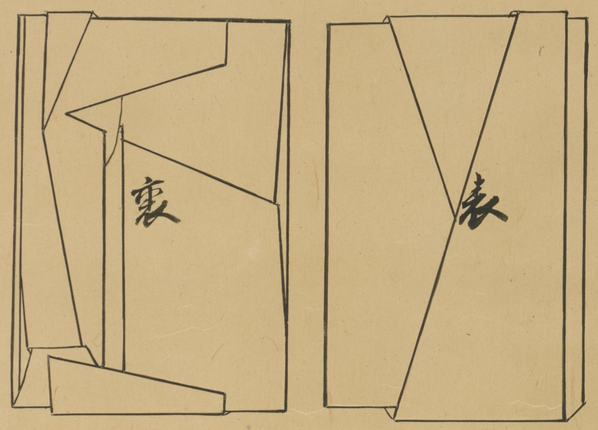


香つゝ見折形

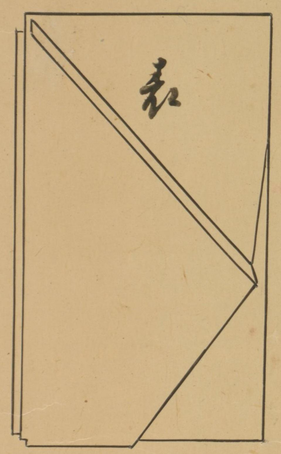
香つて尺折形



常の法懷中に香りて尺

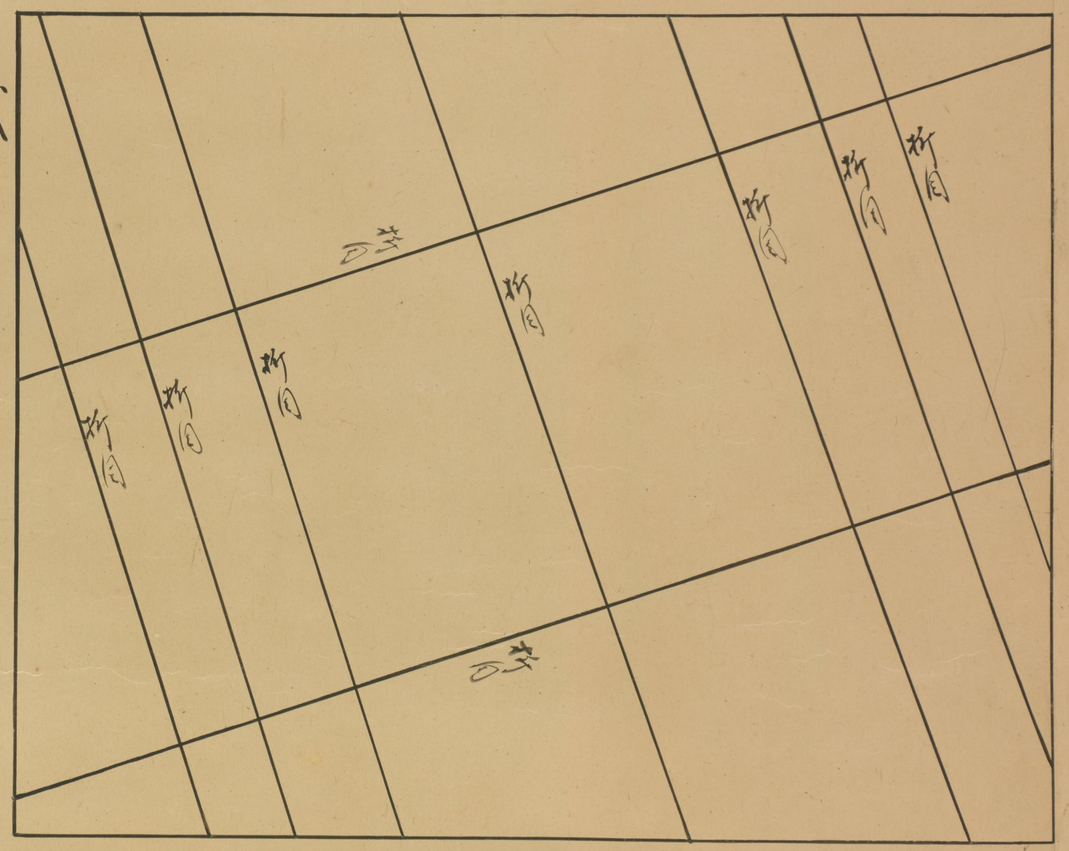


常の法懷中に香りて折形

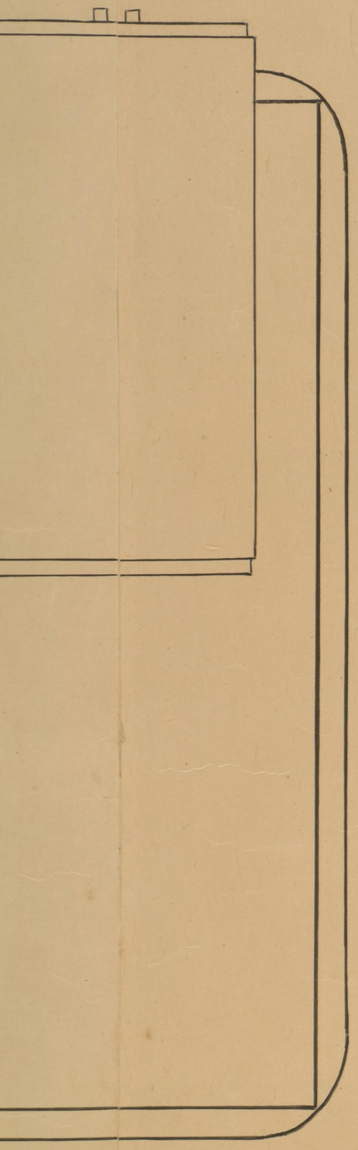


常の懐中に番法見

紙の表裏色のいるを為れ絵様さらします



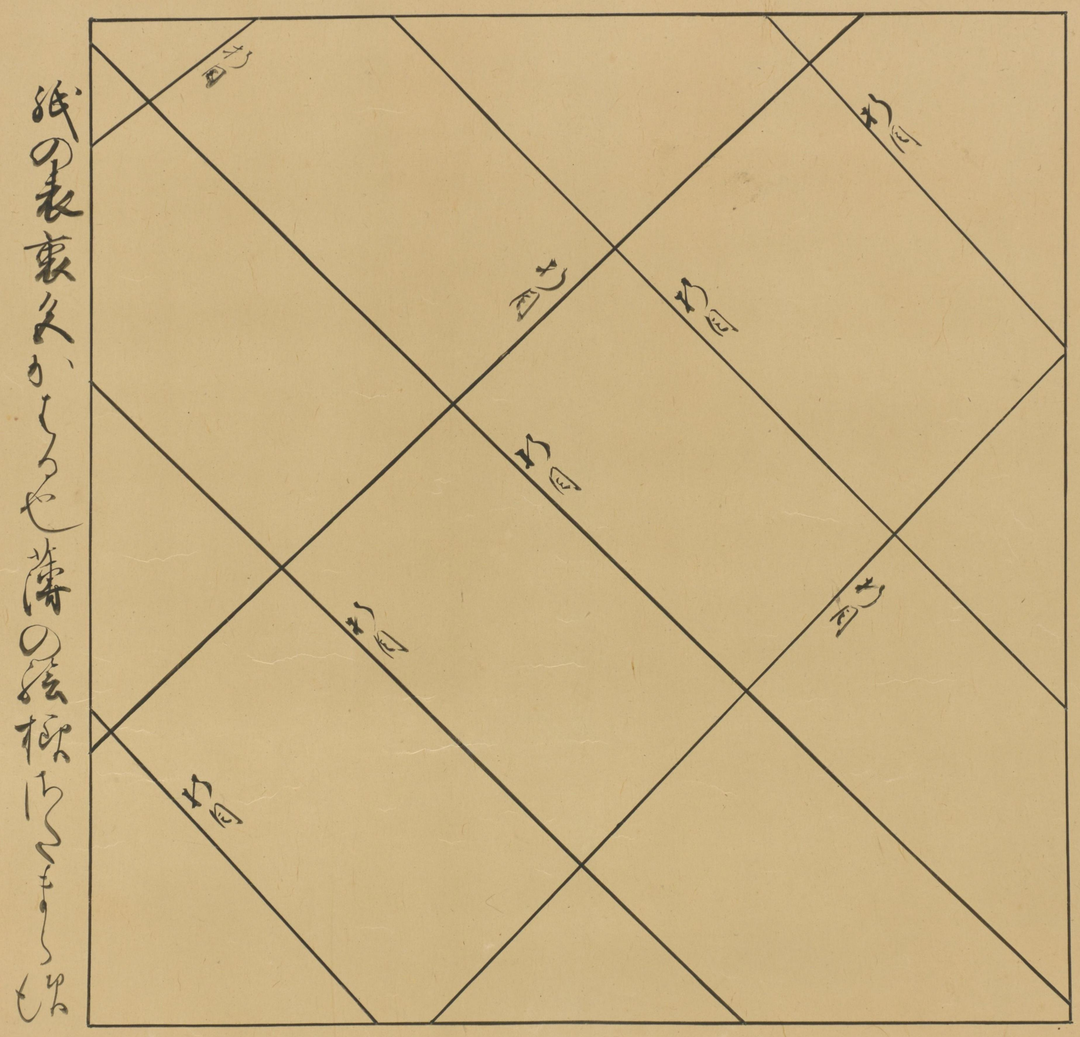
国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24



四方耳の香盆の圖并香畳並極

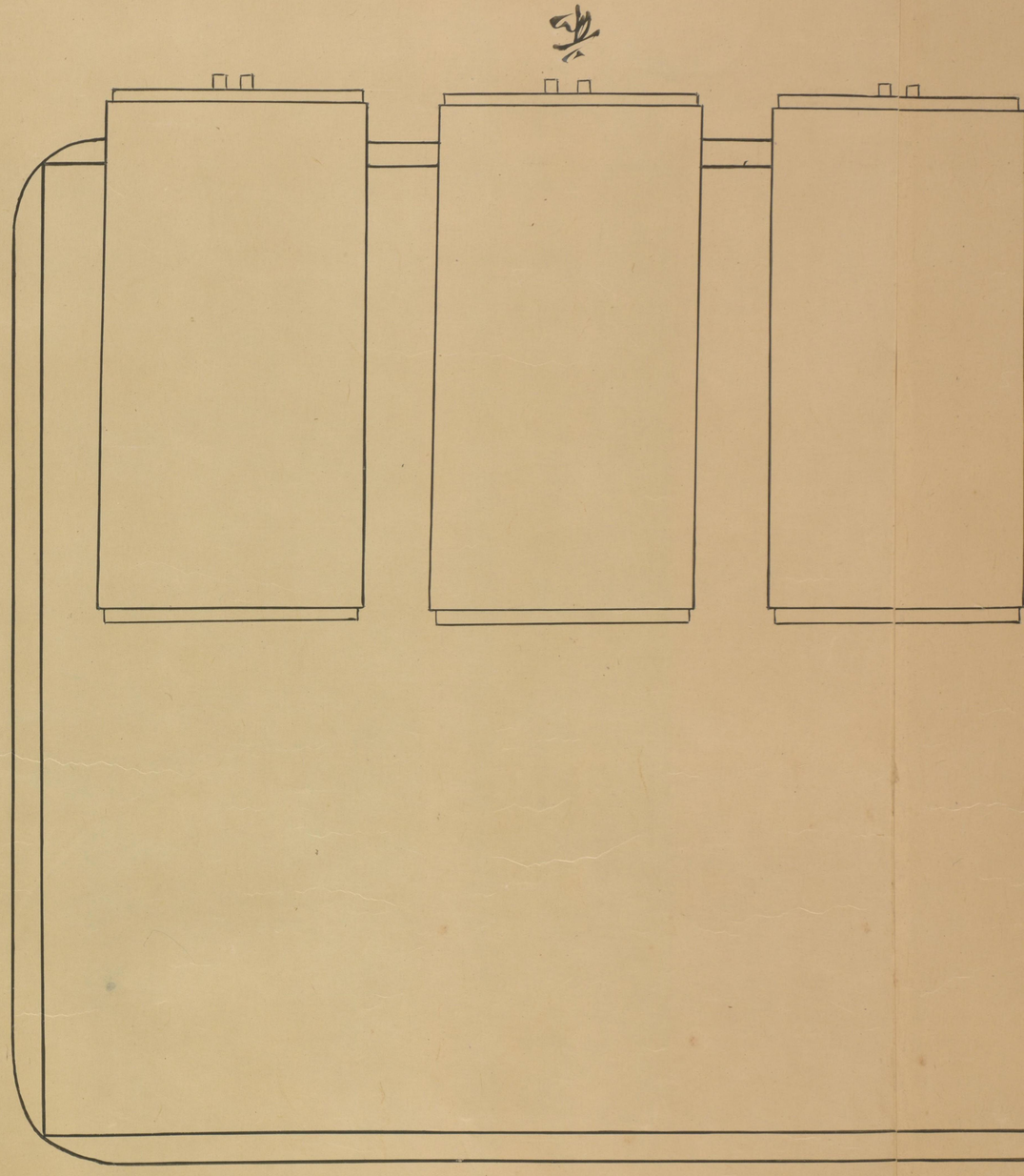
枝おりこ
時は香たこ
とうまの名
くしたくや

紙の表裏久かしらも薄の絵極にてもらも



常の香りゝ入折形

国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24



国立国会図書館　タイトル『五月雨』　請求記号 ん-24

香盒は火こりもちへせ

火こり梨子地に桐の葉
高蒔絵あしてれ文字は
浪うるひ篭浪毛かり
雲烟いつも雲の内り
かありなまもなりて
ふくまんこうや
桐のもしゆきうるく
なりまけもうるくを
人とさつとるなれ也
ふ方ともてあしてに
もうるわ

六種薫物合

文明十年十一月十六日
判衆議詞書山賤後日書之

一番

六種薫物合　文明十年十月十六日
判衆議詞書山賤後日書之

一番

左 勝

なつゝろも

右

さけ風

左薫物の香いひしらぬ匂ひに侍りこゝぞく
うかりしかりもまたもなつしく侍りも
右の薫物の香いかしへ乃侍院なとやう
ひきこそ侍り匂ひすかもまたあし
うしとこうもといへとも左れ匂ひにハ
なよひうこゝろしたなつゝろも右
夏こゝろもしかにたくもとくさく花の
香なるに匂へおなしうゝみよろしく
も名付しれなりと一同に申上手まれ
しわさとや侍り右まけ是ハ後右の
さこのあらりに梅さけハ松風うかり
はうへあきかのといふまて名付れ
そら梅の方にく薫物に名を付ける
事いかしへも数もなきまに侍り
等類もあるへきと各申侍りと仕

事いかしへも数もなきまま作
等類もあるへきこと各申作りて作
陳ひ申されなるハ梅のしれと申
梅うとも毒とも毒とも毒ともふるき名に
作まハうれなりとまとりひくむ也
さけに松をかるとゆゑ申はたきよ
詠しおもたまひそまひく名つを
作りも此申されは其時なのくむるも
ことのかふにはしらしさくハ右左に
まくへおもあらしたにしたれなるへし
薫物の右左まさ也そうまよう一番
左れからりとさためられ作りけり

二番

左 持

やま人

右

きくの露

左れ薫物のかよわし匂ひもつよく袖に
しミとをりやうまうたり作り右乃
薫物のかよ詠しうるきかひれ
なつかしお風情あるなれへし左右い
つしまさるとゆゑ右乃出人

薫物のよすがしうゑきよりひ
なつかしき風情あるなれへし左右い
つれまさるとかうこし左乃仙人右
やす人のおれ袖よりしきくのけゆ
うちもしふてしも子世ハへぬへし右菊
れ家も同哥まそ名付れそもうく
左右も同哥お合まいおしへまも
めつらし名のとり不右まもかさ給ハ
仙人右菊の露ゑうへきをよくしき
こゆる姫左の方まもかさ申さるしハ菊ま
家ハあまりそしも仙人ごり不分
しき名なりといひあらそひ其おほし
無ありく月うゑぬくほとまなもぬ
左右のあらそひ法ましを御る香さうら
まもれく名も一首を同つひまとれ
まいめつらし上臈の同等なるへきを
かさそ見給りぬ

三番

左

いさり舟

右 勝

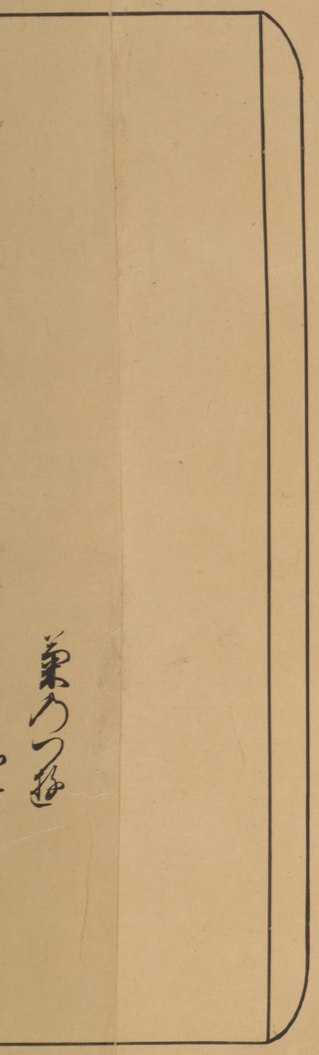
さうきき葉

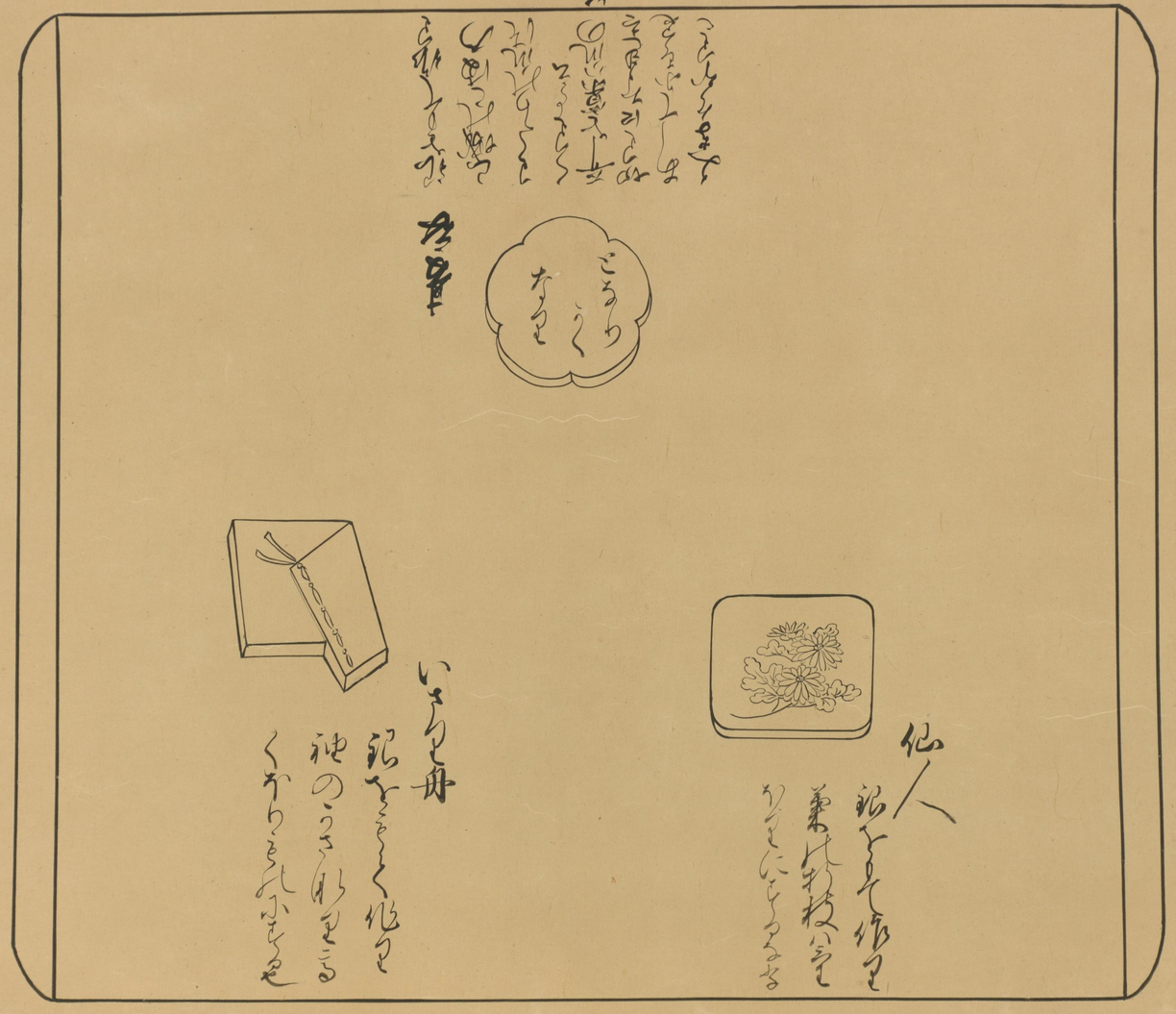
いさり舟

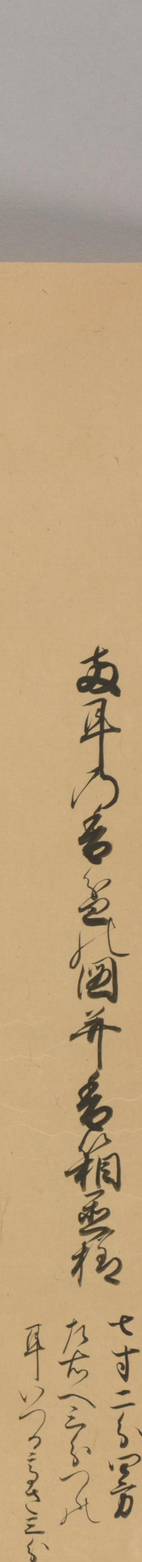
右 勝

さうきこ葉

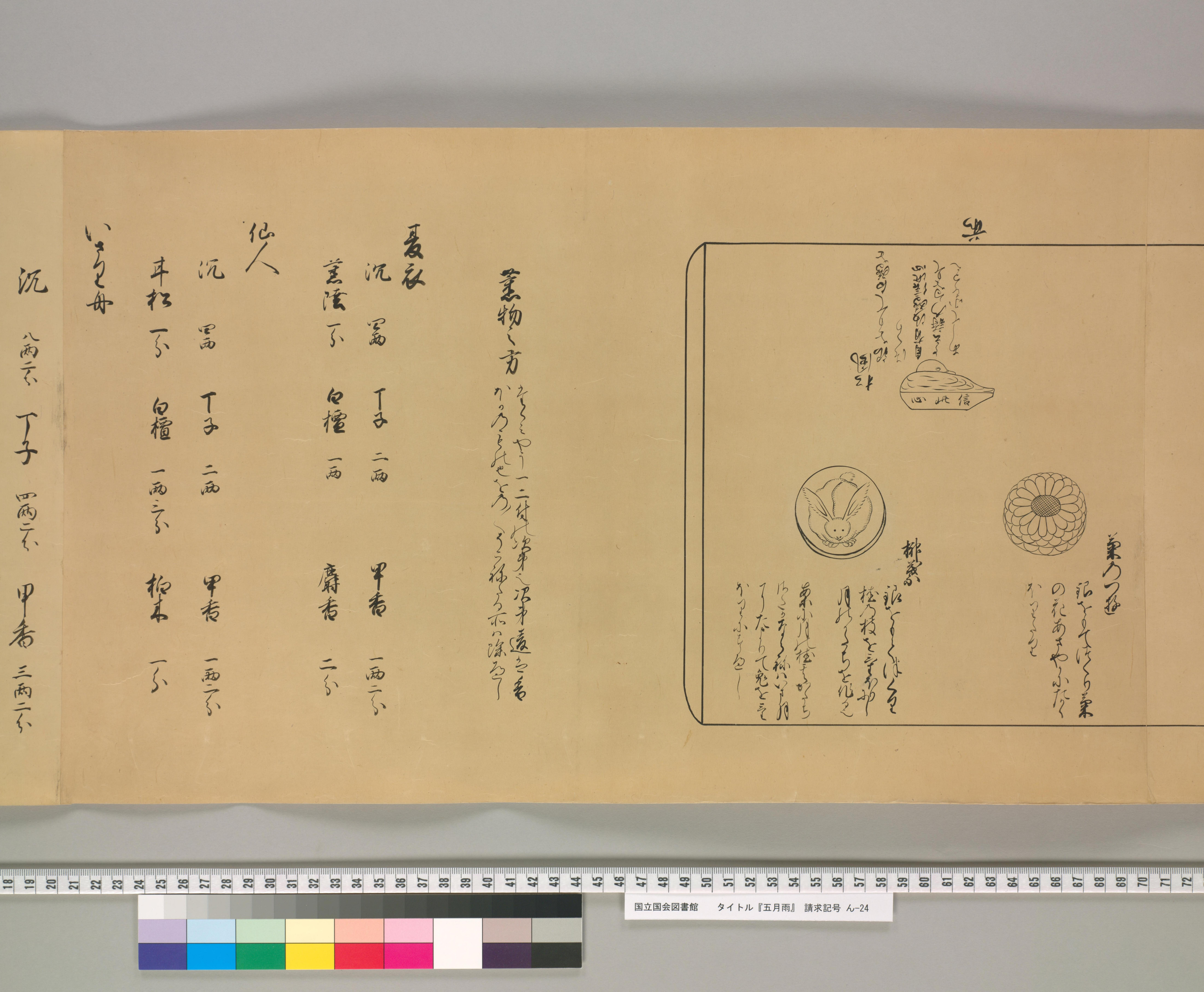
左の葉ゆれなくいまめかしくもしやうに
匂へる右の葉物のいけのまゝに調へ
合ざらうやうゆんさひふるまゝすてゝ
そくさこゝは左いさりみハもくらせ火の
いうまなるいさり船ほのゝありしに
なりひそめてきほのゝなりしと云ます
とれも左なし浮くも思ひくらして名付
られたるゝか麁なる名也右のさうきに
なくしも人色まゝりたるぬさうま葉れゝ
どやハとめて人のさつ世といふなりて
名つ葉られたる名くゝかふしきゝ名
なるゝ左麁なるといへとも柳葉ハ名付
所をうくきこし神祇祝のこゝろも自
然とあまたハさしりたるなるへし名れ
儒たるゝかまも此名右のうちまて作り
けるゝ也







国立国会図書館　タイトル『五月雨』　請求記号 ん-24



薫物之方

そもそもやう一二付の次第之次第遠ハ香かの乃ゑ此也を乃ゑ之ゑ様ゑ所ハ除ゑし

夏衣

沉 四両 丁子 二両 甲香 一両二分

薫陸 一分 白檀 一両 麝香 二分

仙人

沉 四両 丁子 二両 甲香 一両二分

丼松 一分 白檀 一両三分 柏木 一分

いきりと母

沉 八両二分 丁子 四両二分 甲香 三両二分

沉　四両　丁子　二両　甲香　一両二分

丰松　一分　白檀　一両三分　柏木　一分

いさりと母

沉　八両二分　丁子　四両二分　甲香　三両二分

丰松　一両一分　薫陸　一分

松風

沉　四両　丁子　二両　麝金　二分二朱

丰松　一分一朱　朴根　二分

きくの落

沉　四両　丁子　二両　甲香　一両

薫陸　一分　丰松　一分　麝香　二分

柳葉

沉　七両一分　丁子　二両二分　甲香　二両一分

霍香　一分四朱　白檀　一分一朱　丰松　一分

熟麝金　二分

去年の法のきくのの会は来なくり

さいらせしや

熟賛金　二六

去年の清平さくらの会
にまねらり
さいせしや

国立国会図書館　タイトル『五月雨』 請求記号 ん-24